

ホーム名：グループホーム安威ぼっぼ						
自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、理念の共有に努めている。朝のミーティングの際にはふれあいぼっぼの5か条の唱和。連絡板や、スタッフ会議等でも共有に努め、実践している。	管理者や職員の理念に対する認識は深く、ぼっぼ5か条と共に朝礼時には唱和され、常に福祉支援に向けて努力していく姿勢が窺えた。	玄関にある理念の文字や掲示板をもう少し大きくされたい。訪問者にとっても事業所の基本方針を理解してもらい易いと思われる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者と共に、地域を散歩している。庭を眺めたり、植物を職員と一緒に植えたり、地域の催し物に入居者と参加をさせてもらったりして、近隣とのかわりの機会を設けている。	自治会に加入する事で職員が地元の夏祭りやハイキングに参加するなど職員を通して地域との触れ合いを大切にしている。また、入居者と散歩時においても近所との挨拶や会話などを通して交流を深めている。	事業所が地元地域から理解されるようにする事は重要な事である。積極的な交流こそ地元からの協力も得やすくなり互いの為になる事でもあり、事業所の弛まない努力を期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の催しものには積極的に参加するようにし、ボランティアの受け入れをし、楽器演奏や、手芸などを披露していただいている。地域の研修会に参加し、講師として地域への講義を行う			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、福祉委員、地域包括支援センター、施設長等にアドバイスをいただいている。地域全体へのアピールをもっと積極的にしていく。	2ヶ月毎の運営推進会議では多方面からの関係協力者の参加を求め入居者へのサービス向上についての意見を求めている。話し合いは細部にわたり具体的なものであり素早い反応と実践がなされている。	会議は参加者の互いの情報交換をする場でもある。恒久的に家族の参加も求められより幅の広い話し合いをさせて頂きたい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市の窓口相談に乗っていただいたり、助言をいただくようにはしている。介護支援相談員の方にも来ていただき、相談には乗っていただいている。	事業者で決めた取り組みについてなどは、市に報告したりアドバイスを受けたりしている。市からの働きかけや提案などがあれば、常に受け応えできるようにして連携を大切にしている。	事業所が市町村との関わりを深めていくにはどうすればよいかを、事業所全体で話し合われるようにされ、常に関係維持の強化をめざされたい。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。安易に臥床時には2点柵をしないようにすること、閉鎖しなくても転倒事故がおこらないように常に職員の配置、目の届くところにいるように心がけている。階段も使用できる入居者には職員見守りの元運動もかねて階段での上り下りも実施している。	管理者や職員は身体拘束についての弊害を強く認識している。入居者の安全を維持していく為にはどうすればよいか職員間同士で話し合わせ家族にも説明されている。常に気配り見守りがなされ身体拘束のない最大限の努力がなされている。	何故、身体拘束が必要なのかを考える事によって拘束回避への模索がなされていると聞く。身体拘束は入居者サイドからみれば苦痛でしかない。それを何とか回避しようとする事業所の方針に賛同したい。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会などで学び、もちかえり管理者と職員が話し合いの機会を設け、職員全体への伝達をしている。			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修に参加できるようにしていく。定期的に研修を実施し、内容を職員全体で共有できるようにしていく。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>見学からお試し利用迄、入居者、家族への説明を介護支援専門員と共にしながら、納得していただいたうえで、利用していただいている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が来訪されたときは、要望を聞くようにしている。何でも言ってもらえるような関係づくりにも努めている。職員、入居者ともに家庭的な雰囲気を作り、自由に発言できる環境、雰囲気。場作りをするように心掛けている。</p>	<p>家族がよく来られている。意見箱は設置されているが利用はされていない。むしろ家族の意見や要望は直接職員との会話の中で取り入れられ共有され実践へ向けての努力がなされている。</p>	<p>事業所の利点である家族的な面を生かされ、家族との会話の中から希望や意見を見出し、それを記録するようにして改善へ向けて頂きたい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>職員の意見を取り入れながら、業務分担表の作成をしたり、業務改善に取り組んでいる。朝礼やスタッフ会議等、お互いに意見を出しあい、入居者の生活改善に役立てるようにしている。</p>	<p>管理者と職員は互いに日常の介護業務について具体的な話し合いが行われている。職員の意見や要望は業務改善にも役立てられ、入居者へのサービス向上にも繋がられている。</p>	<p>平素から職員が考えを述べられるような環境作りをされ、運営に反映されるような方向にもって頂きたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>運営者は、管理者、職員と多くの時間を共にする努力をしている。職員は入居者と共に裁縫をするなど一緒に時間を過ごし楽しみを共有している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修、内部研修には積極的に参加を促し、朝の朝礼時に報告、共有に努めている。資料を使用し、伝達している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域主催の研修会にも積極的に参加している。</p>		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>職員と1対1で話をする時間をとり、十分に話を聞くようにしている。いつでも電話対応など可能であるということも説明し、安心していただいている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居者の自宅に訪問して、家族とも一緒に考えていき、対応をしている。入居者、家族の要望にいつでも添えるように努力している。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族と一緒に考え、対応をしている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>自分で出来る事は自分でしてもらいながら、全員で支え合い家族のような関係を築くようにしている。家庭的な雰囲気の中で、職員と一緒に洗濯物を畳んでもらったり、家事炊事の手伝いもしてもらっている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時やケアプラン修正時に近況報告を行い、暮らしや気づきの情報等、家族様と一緒に考え支えていく関係作りに努めている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族様やご友人様が訪問されたり、一緒に出掛けられたりと協力しながら支援を行っている。本人様の大切にしてきた習慣を大切にしている。</p>	<p>馴染みの場所に行きたいとの要望があれば家族との相談をふまえて車での支援も考えられている。入居者以前から付き合われていたカラオケ経営者の訪問もあり馴染みの人との歓談も喜ばれている。</p>	<p>入居者の馴染みの場所や馴染みの人こそは思いでのページ。家族との話し合いも含め出来る限り実現への支援をお願いしたい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>座席の位置関係等も考えて生活してもらっている。調子の悪い入居者に対して他の入居者が声をかけたり、お互い助け合いをしながら生活している。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院時の面会、家族への支援も考えながら支援に努めている。必要に応じて、家族様との会話を行ったり、情報交換を行っている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向を確認し、個別ケアを取り入れている。日々の中で、自然に出る思いやりの心を大切にしている。	家族から入居者の生活背景を聞かされてもらい各人の思いを把握している。職員同士で入居者の意向を共有し思い遣りのある支援をしている。	職員と入居者との日常会話においても、時には難しい入居者の意思表示もあろう。そんな中からも正確な汲み取りをしてあげ支援に繋げて貰いたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	これまでの環境背景については、家族様との情報交換を行い、新しい情報についてはコミュニケーションを図りながら、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る限り本人様の意向に沿った過ごし方を尊重している。日々の関わりや、24時間の記録にて把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様からの意見や職員からの意見など会議を行い、暮らしに合った本人様本位の計画を作成するように努めている。	職員の入居者に対するきめの細かい観察を基本に、管理者や家族を含めた話し合いのもと介護計画が作成されている。介護計画の見直しは長期目標1年、短期目標6カ月であるが状況の変化と対応する事もある。	全般的でよりよい介護については、入居者本位の視点に立ってみるのも一考であろう。介護の実践には思わぬ課題も出てくると思われ、常に検討されるように期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に、日々の介護実践記録を記入し、記載した責任者名を記入している。共有するために連絡版を使用し、伝達事項や気づいた事などを書き入れながら、共通認識を持つようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況や精神状況の程度に合わせて介助など考えている。通院等にも同伴し、往診に来てもらうこともしている。必要時には医師の指示のもと、看護師が医療行為を行っている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーや100円ショップ、病院、庭のキュウリやトマトの収穫等、楽しみながら生活できる様支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、事業所に往診に来てもらっている。電話連絡にて相談、報告をしたり、必要時には臨時に往診に来てもらったり、受診をしている。	入居者に家族や本人の同意を得、協力医への変更の説明がなされるが、かかりつけ医の利用も尊重され往診してもらっている。2週間に一度の受信はかかりつけ医の場合も同じであるが、入居者の殆どは協力医の診察をうけている。	入居者には古くからの気心知れた主治医が、かかりつけ医であって欲しいもの。事業所の継続した協力をお願いしたい。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>施設内に看護師を配置しており、定期的に利用者様の状態把握や体調管理を行っている。日常的には協力機関に連絡を行っている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>診療情報や看護・介護サマリーのやり取りや、入院先での説明・情報提供により、地域医療連携室の医療ソーシャルワーカーとの連携を行っている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化による指針を作成し同意して頂いている。終末期については、ご家族様・医師等を交えて話し合いを行い対応方針を統一し、困難なケアやサービスの希望する場合は医療機関との調整を行っている。</p>	<p>重度化に向い始めた入居者については今後の対応について家族、医師をまじえて話し合われている。現在は2人が看取りを希望されているとの事。事業所ではこの3年間に3名の看取りを経験され終末期への支援については万全の体制をとられている。</p>	<p>重度化に向けての、事業所の指針には万全のものがある。同時にこれからも家族や職員の手厚い看護のもと、尊厳ある終末までの支援をお願いしたい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故に備えては、連絡の手順を明らかにし、管理者は看護師と連携し、協力医療機関への連絡を行い、対応している。職員にも市開催の救命講習に参加の呼びかけを行い、受講してもらっている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署と連携して消防訓練を実施している。また近隣の方に訓練への参加の声かけを行い、非常時の協力体制の確保に努めています。</p>	<p>消防署の立ち合いのもと年2回の避難訓練が行われている。2階が入居者の居室であるので階段での避難は職員が付き添い重度の入居者についてはベランダまでを職員が誘導しあとは消防署員が外部へと導く。水害については建物が高台にあり全く心配はない。</p>	<p>緊急時においては想定外の混乱も考えられ、職員全体であらうる事態について話し合せて欲しい。特に近隣との協力も欠かせない事でありその取り組みもお願いしたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様に対して、個々の情報を把握し、今まで生きてこられた歴史を尊重し個々に合った声かけを行うことに努めている。	職員の入居者に対する優しい声かけは入居者の心を和らげている。入居者に対しては否定的な言葉もなく入居者本位の立場で接している。	名前の呼び方には一人ひとり違った反応があると思われる。その人に合った呼び方は職員で共有しあい、喜ばれる話し掛けをされて欲しい。
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様に対して、固定観念でとらえない様に心がけ、傾聴を行い、その人らしさが出せる様努めている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の意志を尊重し、その方のペース・希望に合わせた支援を行い、その人らしい生活が出来る様努めている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には、本人様に好きな物を選択して頂き、季節に合わせて家族様にも協力して頂いている。		
40	15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや食器の片付けなど一緒に行えるように努めている。個人の好き嫌いに気を付け、嫌いな物は工夫し提供している。	栄養管理された食材は、配達業者によってぼつぼ本部に運ばれ調理される。朝食はパン・ヨーグルト・卵・フルーツ・飲み物が主であるが、昼食夜食は変化をもたせ美味しく安心して食べられる食事である。入居者の中に配膳の手伝いなどもする人もい	食事は入居者の一番の楽しい時。入居者の希望する食べ物としてはお寿司などもあるという。希望を満たされるような支援もお願いしたい。
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し観察を行っている。看護師や職員全員で支援を行っている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が見守り援助し、毎食後声かけを行い、その方に応じた口腔ケアを実施している。		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	全職員で自立に向けた支援を行っている。その方に合わせた促しや、訴えがない方でもトイレで排泄出来る様、様子観察を行っている。	排泄の支援には特に心配りがなされている。時間が来たらさりげなく話し掛けたりして自立に向けての支援を行っている。トイレでは立ち上がる、座るなどの支援もなされている。	加齢的な面で脚力、筋力の低下があり自立での排泄を難しくしている。起座居での排泄が出来るような自立に向けての体操も取り入れられてもらいたい。
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況と水分摂取量を記入して観察を行い、水分補給の促し、適度な運動を心がけている。		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ゆっくりと入浴できるように時間をとっている。曜日は決めているが、希望があれば入浴して頂いている。	週に2回の入浴があり1回につき30～50分のゆったりした時間が当てられている。洗髪も毎回おこなわれる。湯は1回毎に入れ替えられ清潔さは維持されている。入浴を嫌がる人には「着替えをしましょう」とさりげなく誘ってあげたりする。職員は入浴中は会話を交わしながら楽しい入浴タイムを心掛けている。	風呂場での転倒防止にはさりげない会話を交わしながら身体を支えるという方法もあり会話の重要性は高い。職員の温かい支援に期待したい。

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状況に応じて休息や安眠ができるよう支援し、安心できる場所であると思っ頂けるよう努めている。		
47	○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に、申し送りやミーティングの際に、注意すべき内容の周知を行っている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりあいで各個人の楽しみを見つけ、楽しんでもらったり出来ることは手伝ってもらい、感謝を伝えるようにしている。		
49 18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日々の健康状態や気分に合わせて、周辺の散歩など外出している。気軽に出かけられる様希望に沿った支援に努めている。	週に2、3回の散歩がなされている。車の往来はほとんど無く安全である。建物周辺だけではなく、中には近くの本竜寺まで行く人もいる。春や秋には家族とも相談を交えて、おやつや飲み物を車に積んで花見にも行く。	日常の小さな外出も、入居者には精神的にも身体的にもフレッシュな気持ちになれる。建物から少し離れた所には自然の草木も見られ、直接手に触れる楽しさもいいのではないかなと思われる。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内ではお金を使う事はほとんどなく、買い物をする時に付き添い、力量に応じてお金の支払い等支援を行っている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話したい場合は、希望の要件を伺い職員が電話をして本人様に話してもらっている。手紙等などは、届いた場合は本人様に直接お渡しし、返信あれば支援を行う。		
52 19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体をバリアフリーにしている。居間兼食堂には大きな窓があり自然の景色が見え、採光も良い。自然が多く、静かで騒音などはなく、虫の音色や鳥の鳴き声など聞こえる。温度調整は外気を取り入れたたり、空調を利用したりしている。	リビングには自然採光が取り入れられて全体が明るい。冬は暖かく夏は窓を開けても蚊などは入ってこないという。四季の季節感の中で入居者は職員と楽しい語らいの時間を過ごしている。また、入居者は1階にある小規模多機能も利用する事ができて活動範囲もひろい。	四季の変化が共用空間のルームにも伝わってくる。更に願わくは手作りの作品を増やされ展示するなどしてより楽しい共用空間にして頂きたい。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間兼食堂では好きな場所に座って貰っている。1Fへ気分転換に行かれたり、本人様の思い思いに過ごして頂き、気の合う方とコミュニケーションを取ってもらっている。		
54 20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していた使い慣れた物や、本人の思い出のあるものなどを持ってきてもらっている。	入居者一人ひとりの思いでの家具や置物や飾り物は、今までの生活から離れない安堵感と居心地のよさを与えている。家族の協力もあり生活感のある居室になっている。	居室の中で職員が気がついた事があれば助言してあげる。また、今日が何日であるという事を知ってもらう為にはカレンダーが必要であり、自覚されていない入居者にも教えてあげて頂きたい。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者様の残存機能や能力に応じて、トイレや食堂に近い居室にする等、配慮をおこない、入居者同士の助け合いなど、積極的にできる事を支援している。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない